

令和3年度 上田市立本原小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子ども像
なかよく たくましく かんがえて	○地域を愛し、自分が好きで、人にやさしく思いやりのある子ども
	○粘り強く考えられる学習意欲の高い子ども
	○堂々と挨拶や考えを言えたり、自分に自信を持って取り組んだりできる前向きな子ども
	本年度の重点目標
【令和3年度の基本理念】 学ぶ喜びを感じ、 明日を楽しみに来る学校	なかよく: ○個性を発揮し認め合う学級づくり ○安心できる人間関係づくり ○明るい挨拶・返事の定着 ○歌声の響き合う学級・学年 ○人権感覚を高める活動 ○子どもと向き合う時間の確保「のびのびタイム」 ○児童会活動や地域との交流 ○原っ子育成地域カリキュラムの実施 ○「原っ子応援団」との連携
	たくましく: ○心を磨く清掃「無言清掃」「見つけ清掃」「感謝清掃」 ○係活動など周りのために役に立つ活動の継続 ○ねばり強く取り組む意欲の育成 ○健康・安心・安全の意識育成と徹底 ○運動集会の充実 ○季節ごとの重点運動への取り組み ○体力テストの実施と結果分析 ○外遊びの奨励・充実 ○校庭での運動会や持久走大会
	かんがえて: ○日常的な授業の充実・学力向上 ○学ぶ楽しさ・学習意欲を喚起する授業づくり ○授業のユニバーサルデザイン化 ○本原小授業スタンダードの取組 ○「じっくり考える」「考えを文章や図にまとめる」「考えを伝える」「心を傾けて聞く」ことの日常化 ○繰り返しの学習による基礎基本の定着 ○SKM(すべての子どもの学び)の充実授業と習熟度の配慮 ○一人一台端末の活用

総合評価		
評価	成果と課題	改善策・向上策
	<p>・自分からあいさつをできる子が増え、朝の廊下がとても気持ちよく感じる。</p> <p>・学習では、授業中に粘り強く考えていても、長続きしないこともある。継続して「もっと知りたい」「もっとわかるようになりたい」「勉強が楽しい」と感じられる授業作りをめざせるようにしたい。</p> <p>・自己肯定感の低さが課題である。友達の良さ、自分の良さを実感できるような取り組みを意識していきたい。</p> <p>・気持ちが安定して人にやさしくできる子どもが増えてきたと感じる。反面、年齢的なものや長引くコロナの影響もあってか、意欲、覇気のようなものが若干弱まっている現状である。特に女子は静かでおとなしい子どもが多く、前向きに発信する子が固定化しつつあるが、それも一人一人の持ち味なので、それぞれのありようと成長を大切に認めていきたい。</p>	
B	<p>○自分から気づいて挨拶できる場面をその都度指導してきた。児童数名は自分から挨拶できるようになってきた。</p> <p>●コロナ禍で、さまざまな活動や交流に制限があり、十分にできない面があった。</p>	<p>・時間で活動を切り替え、心に折り目をつけて行動する習慣をつけたい。朝の会などで、挨拶ができたかどうか振り返る時間を設ける</p> <p>・原っ子育成地域カリキュラムについてあまりよく知らないので周知していきたい。</p>
B	<p>○週に一回、「もくもくそうじ」(無言清掃)を設定したことにより、静かに掃除をする雰囲気がつくれつつある。もくもく掃除の日が定着し、木曜日は静かに掃除ができるようになった。他の曜日でも意識してできるとよい。</p> <p>○1学期は一緒に外遊びをしたり外遊びを促したりしていたが、その後は児童の判断にまかせていた。</p> <p>●外遊びを奨励していたが、室内遊びで楽しむ児童が多かった。持久走大会前は、毎日外で走って練習する姿が見られた。</p>	<p>・月目標のように、毎月強化したい重点項目を考えて、運動集会などで提案していきたい。</p> <p>・たくましさの向上を子ども自身が自覚できるようにする。(体力など数値化できるもの)</p> <p>・児童会の活動として、安全な遊具の使い方・遊び方を提案していく。</p> <p>・「時間いっぱい集中して」というところを基本に、より清掃に対して前向きに取り組めるような工夫があるとよいと思う。</p>
B	<p>○一人一人の学びに応じた指導方法を工夫し、学力の向上を図ることができた。</p> <p>じっくり考える時間をとることができた。</p> <p>○一人一台端末の導入により、子どもたちの意欲を引き出せる場面が多かった。</p> <p>○運動会では、海外出身の保護者の力をお借りし、楽しみながらダンスを創作できた。子どもたちの表現力、国際理解、体力向上につながる充実した活動になった。</p> <p>●本原小授業スタンダードと呼ばれるものが、あまり意識できていない。意識しながら取り組んでいく必要がある。</p>	<p>・基礎基本の定着に向け、しっかり年度末まで取り組んでいく。学習姿勢はできてきたので、早くできる子、じっくり個別指導したい子への対応についての工夫を考えていく。</p> <p>・タブレットの使い方について、試したり、紹介しあったりする職員研修の時間を月に1回は設ける。</p> <p>・休み時間に校庭や体育館で運動することが少ない女子が多い。ボルダリングやなわとび、はねつきなどは興味を持っているので、広げたい。</p> <p>・まとめて書くだけが良さではないかもしれないが、図習の展示だけでなく、ほか教科でまとめたものなどが掲示されるとよいと思う。パソコンでまとめてそれで終わりではなく、そこでまとめたものをアナログで見せるのも大事である。</p>

分野	重点活動	学校評価の中核的観点
なかよく	○一人一人の子どもを大切に学級づくり・学校づくり	○子ども同士、子どもと教師が人権感覚を磨いているか。(あいさつ、あたたかなことば遣い等)
		○子どもが自己肯定感を高めているか。(自分が好き、自分に自信がある、自分でがんばる等)
		○いじめや不登校を解決に導き、楽しい学校づくりができたか。(いじめを見ぬく、長期欠席に真摯に対応する)

評価	改善策・向上策
A	<p>○明るい挨拶や相手に届け返事が出来る児童が増えていて、よいと思う。感染レベルの状況で歌える時と歌えない時があり、日常的に歌を取り入れていくのは難しい。</p> <p>●ニックネームや呼び捨てで名前を呼んでいるときは、さん付けで呼ぶよう指導した。継続していくことが必要だと感じる。</p>
B	<p>○活動への見通しをもてるようにしたり、成功体験を増やしたりして、自己肯定感を高める子どもの姿があった。</p> <p>●「自分が好きではない、嫌い」という児童がいる。話を聞くと、見た目に対して引け目を感じる児童がほとんどで、そんな児童に対してどう指導していくか課題。</p>
B	<p>○不登校に関しては児童の実情に沿った共感的な支援が校内で多く見られているように感じた。</p> <p>●コロナ対応の休みもきょうだい等で長期化しやすい。気持ちが萎えない配慮を心掛けたが対応しきれない面もあった。</p>

教 育 活 動	たくましく	○健康・安心・安全の意識の育成と体力の向上	○健康への意識を高める工夫ができたか。(保健体育・外遊び・運動集会の充実)
			○安心・安全な生活環境づくりの工夫ができたか。(保健指導、環境整備)
			○清掃や係活動など働くことに積極的に取り組めるよう働きかけているか。
か ん が え て	○すべて(S)の子ども(K)の学び(M)が充実する授業づくり(SKM充実授業)	○「かながえるくん」(もっとかながえるための掲示)の活用等、考えを深める授業を工夫しているか。	
		○「つたえちゃん」(心をこめて伝えるための掲示)の活用等、対話したり思いや意図を話したりする授業を工夫しているか。	
		○すべての子どもの力を更に伸ばすような授業実践をしているか。(ユニバーサルデザイン化、教室環境、教材準備等)	
学 校 運 営	○様々な教育活動・体験活動を通し、豊かな心の育成	○「原っ子応援団(学習支援ボランティア)と連携し、地域に根ざした活動の場を設け、体験活動が充実しているか。	
		○児童会活動、縦割り班等の交流を通して、積極的に体験活動できるよう工夫しているか。	
学 校 運 営	○子ども・保護者・地域との信頼関係を深める	○学校だより、学級・学年だより、安心・安全メール、ホームページにより情報を伝えているか。	
		○連絡帳、電話などで保護者と連絡をとり、信頼関係を深めているか。	
		○学校内外の相談体制の周知、受け入れ体制の整備を進めているか。	

評価 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった

A	○コロナ禍で、子どもたちの衛生に関する意識は高まり、手を洗うことや間をあけるといっお言葉がけが子供たちでできる場面も多かった。1年生の雑巾がけが丁寧でとても良いと思った。 ○清掃は、具体的に指導し一緒にやることで、丁寧に取り組むことができた。また、もくもくそうじの日、おしゃべりが少なく取り組み方もよいと思う。 ●清掃・係活動については、とりあえずできているが、もう少し技術的な向上と自主的な姿を願いたい。	・校庭や体育館で体を動かして遊ぶことが少ない女子が多い。特に球技には加わらない女子が増えている。ボルダリング、なわとび、一輪車、はねつきなど好きなものもあるので工夫が必要である。 ・トイレなどは、定期的に児童と一緒に掃除をするようにする。 ・軍手や消毒などの対策方法や、授業内容の共有など、職員間での研修や情報交換を進めていく。
C	●「かながえるくん」を十分活用できなかった。じっくり考える時間をとるために、子ども達と相談して時間を決めている。	・掲示物を使うなら使うで職員同士で指導案に入れるとか、声をかけるとか意識をしていくとが必要。
A	○コロナ禍でペアグループ活動が制限される中で、対策しながら交流活動ができたと思う。またICTを利用することで、新たな意見交換の場もできた。普段は発言しない子のいい意見を共有することができる等、発見もあった。 ●「つたえちゃん」を十分活用できなかった。伝え合う活動をいくつか用意し、パターンで取り入れている。(フリートーク、グループ、ペア)	・授業の中でどんなことが対話したり、思いや意図を話したりすることになるのか話ができる場があるとよい。(職員研修や職員会の開始前など)
A	○一人一人の学びの実態に応じた学習指導を心掛けてきた。ユニバーサルデザイン化や教室環境は良いと思う。 ●タブレットや、テレビ、黒板、今は様々な手段があるので、その都度最適な方法を見つけながら取り組むことができた。しかし、こういうのがあればもっといいなということもあるが、決まった制限や時間の中ですべてをやっていくのは難しい。	・ユニバーサルデザインの項目に合わせた職員研修で自己の授業を振り返ることはよかった。定期的に行ったり、継続したりしていくとよい。
B	○田んぼの活動を通してたくさんの方に関わっていただくことができ、大変ありがたかった。	・いつ、どのタイミングで連絡をするのか、何をするのかを引き継ぎ資料として残しておくとか次年度の人が動きやすいと感じた。
B	○縦割り活動は出来る時に行えて良かった。児童会活動は、今できることを工夫して行っていけるとよい。 ●コロナ禍で、制限もある中で工夫して行うことができていた。委員会の企画が重なってしまい、何をやっているのかわからなくなってしまうことがあった。	・委員会同士の連絡を密にして、1つの委員会の企画を全体で盛り上げられるようにしていけるとよい。
A	○必要な情報を、必要な時に、伝えることができていた。 写真を用いて、学校での様子が伝わるような学級便りを発行した。	・個人が特定できる写真については今後も配慮していく。
A	○連絡を密にとりながら、情報を共有することができていた。 ○連絡帳、電話をはじめ、日記や作品返却時などのコメントを丁寧に言い、信頼関係を保つことができた。	・継続して家庭との連携を図っていく。
A	○朝、少し気分が落ち込んでいる子に対して保健室と連携して受け入れられたことができた。 ●不登校対応など、もう少し迅速に外部に頼れる仕組みがほしい。 ●1学期は、短時間で集中的に関係者会議を持てたが、その後できていない。	保護者と話す前に学校内で状況の把握、対応の仕方の確認ができれば、誰が連絡を取っても同じ方向を向いて話ができる。 ・担任の先生方からの情報提供があった時や欠席が多くなった時、または2か月に1回など、関係者会議を開く目安を設ける。